

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用時や業務カンファ等の中で定期的に理念の共有化に取り組み、各ユニット、職員休憩場所などに掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の中での散歩時での出会いの挨拶で、行事等にお誘いの声を掛けたり、近くに公園もあり、交流できる場を利用し、お付き合いが出来るよう工夫している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内行事、家族会、又、地域の行事へ参加する機会を多くし、認知症の方との接し方など、理解して頂けるよう、工夫している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容については、業務カンファにて内容報告をし、意見交換や次回開催に向けて御家族からも希望を取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、現状の報告に伺い相談を行ったりしている。市役所からも研修場所の協力要請があったり、お互いに協力しながら運営している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な事例を挙げながら、拘束とならないように注意している。また、玄関も常に解錠されているので見守りには注意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	委員会を設け、どういった行為が虐待になるのかを学んだり、事例検討を行ったりして防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とする入居者がいない為、講習会など参加し、学習の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書のほかにも書面を用意して口頭だけにならないように注意している。また、重要な部分は繰り返し説明すると共に、必ず御家族にも不明点等有るかを伺い、行き違いの内容に注意している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族にはなるべく多く話しかけ、気軽に意見を言えるような雰囲気作りを行っている。また、外部への意見申し立てとしては契約書に数件の連絡先があり、任意に選択できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見を出しやすい雰囲気作りを図り、気付きによる提案、良い意見は反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格手当を設けたり、年間休日の配慮、及び有給の取得推進など、会社理念の一つである「働きやすい職場づくり」を実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修であれば、会社負担で外部の研修への参加も認められている。但し、伝達講習を必ず行い、他の職員にも知識や技術の向上の一つとしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居の問合せがあった時など、外部のグループホームへ連絡したり、市役所主催のグループホームの連絡会議に参加したり横のつながりも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実地調査を行う段階で、基本事項のヒアリングの他に、通常の会話の中から自然と引出すように配慮している。また、何回か訪問することで安心してお話いただける様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約等を行う前に、グループホームではどういった内容の介護を行うのか、どのような方針なのかを説明すると共に、御家族の考えをじっくり聞く事で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の状況と御家族の考え等を考慮して、当施設での対応方法をお話し、必要であれば別のサービスも説明することで、最適な方法を見つけられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来ることを見付けて、お手伝いやレクを一緒に参加を心掛けている。行事等も御家族をお誘いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に気軽に利用者様の様子を伝える様にし、御家族と共に考えて介護を行うという体制を作っている。また、職員とはその都度話し合い、考えが反映されるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店などに買い物に出掛けられるよう支援している。御家族や友人の訪問は居室やフロアにて行い、家族の話題や思い出話等に耳を傾け、快く過ごして頂けるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや普段の会話の中に職員が入り、なるべく利用者様全員が楽しめる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	普段からなるべく気軽に話せる雰囲気を作っているので、当施設の利用がなくても気軽に訪問し、時には相談に応じたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当の職員がどうことが喜ばれるかなどを、他の職員と相談しながら把握してそれに沿うような生活が出来る様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に御家族から情報を聴き取るようにしている。又入居者様とよく話をする事で、情報を得る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化には常に気を配り、些細なことで日々の申し送りやケアカンファ、スタッフ会議などで検討しケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時の御家族との会話の中や日々の過ごし方の中で課題を把握し、より良い介護に結び付ける事が出来るよう、モニタリングをし、ケアプランを立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には、御本人の様子、精神状態が良く分かるように記入する指導をしている。管理者は毎日それを読み、申し送りや会議で迅速に指示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時や家族会の際に、御家族と良く話し合い、何が一番求められているのかを的確に把握し、施設内で対応が出来ない場合は、他のサービスをアドバイス差し上げたりご家族の精神的な部分の支えにもなるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問活動で楽しんで頂いたり、消防では応急処置や救命講習などでお世話になっている。市民向けの教養講座などに参加して頂きたいと思っているが、認知症の程度や集中力の低下などで困難と感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GHの協力病院は決まっているが、御家族が今までの掛かり付け医を希望する場合は、継続して頂く。しかし、今までそのような事例は無く、現状の医師ととても良好な関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護を行う中での気付き等は必ず記録に残し、的確な指示を頂ける様に医師や看護師には往診時に報告を行っている。また、頂いた指示については次回に必ず経過報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に頻回に伺い、状態の把握に努めると共に、御家族同席の上で退院後の注意点を聴くなど、御家族、病院関係者、施設との良好な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状は本人意思や御家族希望、施設で出来ることを踏まえて、個々の対応となっているが、終末期介護に向けて、統一した方針を書面に掛けるようにしたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、基本事項の統一を図った上で訓練を行い、実践を通して緊急時に対応できるよう体で覚えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練も含め、定期的に防災訓練を行っており、消防署にも訓練時に指導を頂くなど連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員でその気持ちでケアをしているが、不適切な言動を確認した時には、管理者がその場で指導したりするなど、人生の先輩として、プライバシーを守り、言葉掛けや対応に配慮する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の意見を確認するなど、会話を大切にしながら、思いや喜び、楽しみを理解するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急がせることなく、又押し付けることなく、一日の流れの中で一人一人の気分や体調を考えながらその日のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容はボランティアで安価にして頂いている。御家族の協力を得て今後は外出時にお化粧品や洋服を購入するなどにも力を入れていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	意思を尊重しながら、その方の出来ることを一緒にしたり、見守りながら共に食事の準備や後片付け等、一部お手伝い頂いたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取チェック表を作成し、水分が不足しないようにしており、一人一人の状態に合わせ、お粥、きざみ、とろみ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔保持や誤嚥を防ぐためにも、食後は個々に合った口腔ケアに努めている。毎週定期的に訪問歯科が来て、治療や口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表から排泄パターンを読み取り、一人一人に応じた声掛けを施行。安易にパットの枚数を増やしたり、おむつ対応にしておらず、一人で介助で困難な方は2人介助でトイレにて自立排泄に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防策としては、体操や歩行を促し、時としておやつに繊維質の多いものを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、1～2日おきに入浴出来る様にしている。入浴をあまり好まない方には、声掛けの工夫をする。その時の精神状態により、午前、午後と対応出来る様にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、疲れが見られる時、又は一人になりたい時等は、居室で休んで頂いたり、又フロアのソファで休んで頂く等、御本人が心地よくいられる場所となるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指示のもと、処方薬は一人一人のカルテに目的、副作用、用法、用量を記載し、薬の処方が変更となった場合は、その旨を皆に伝達すると共に、受診記録を参照し、様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活のメリハリを持ち、キッチンの手伝いや掃除、洗濯たたみ等、スタッフと一緒に出来る事をお手伝いしている。創作等も得意な方に教えて頂いたりして、個性を尊重している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	認知症が重度化しているため、大勢の人のいるところでは、怖い感じがして落ち着かなかったり、少しでも風が吹くと寒いと訴えがあり、GHIにいる時が一番安心していられるような感じではあるが、その方が喜びそうなイベントなど、一人一人状況に応じて、時として御家族の協力を得て外出している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を心配されている方は数名いらっしゃるものの、御本人が管理できる方はいらっしゃらなく、御家族とご相談の上管理させて頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった場合には、家族の協力を得て、電話が出来るようにしている。手紙等も希望があれば投函、又、面会時にお渡ししたり出来るよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく「自宅」の雰囲気にならぶようあらゆる空間において配慮すると共に、季節感が出るように装飾も季節ごとに装いを変えている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の上がりかまちに腰かけ団らんしたり、ソファや和室で横になられたり、一人になりたい時に離れた場所に椅子を持ってきたり工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や装飾品を持ち込み、精神的に落ち着けるようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置や自室に装飾等で工夫を施し、職員の誘導が無くとも分かるようにしている。また、日常生活の中で出来る事はお手伝いを頂くことで、残存機能の向上や存在意義を見出している。			